

科目名	倫理学概論	科目責任者	石神 豊
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC224		

■ 科目概要

「倫理学概論」として、テキストを全般にわたって学習します。序論「倫理学を学ぶにあたって」では倫理学を学ぶ意義について、第1章「倫理学への道」では基本的な倫理学の観点について学びます。第2章「現代における倫理の場面」から第6章「生命の尊厳の探究」は第1章の基本的観点を各論的に展開した章です。第6章はいわばその結論部になります。第7、第8章は価値の問題と宗教の問題をとくにとりあげ現代の問題として考察します。そして、第9章是对話の形で倫理学の歴史をたどるものです。本書の学習を通して、価値創造の人間学としての倫理学について、総合的に理解・把握していきます。

■ 到達目標

「倫理学概論」の学習は、二つの大きな到達目標をもっています。

- (1) 倫理的な問題関心を深め、倫理的な思考法を身につける。
- (2) 倫理学の思想的知識を身につける。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
序論	倫理学とは何か。また、何のために学ぶのか。そうした、基本的性格と目的について、とくに『論語』冒頭の一節、およびソクラテスの人生をめぐって考察する。
第1章 1～2	倫理学の基本的な観点について、身近なものごとに着目することの重要性と、自分自身で考えるということの大切さについて学ぶ。
第1章 3	倫理学の基本的観点のうち、「関係の中で学ぶ」ということについての考察をする。関係は「もの」「ひと」「自分」によって成り立っていること、そしてこれらの関係が相互に関係しあうことについて理解する。
第2章 1～2 (1)	現代において倫理が問題とされる場面について具体的に考察する。1は、3つの現代の問題の基本的考察。2 (1)は、3つの関係のうち「物との関係」（とくに食物との関係）をとりあげて考えてみる。
第2章 2 (2) ～ (3)	地球的問題としての有限資源の問題、地球温暖化現象の問題をとりあげ、具体的な推移と今後の課題について考察する。
第2章 3 (1) ～ (2)	現代の情報倫理について。その歴史、さまざまな現代的問題、そしてその問題の本質がどこにあるかについて、考察していく。学習者も各々の経験を思い返しなが、学ぶことが望まれる。
第2章 4	現代の生命倫理について。20世紀60年代に生まれた「生命倫理（バイオエシックス）」について、とくに「インフォームド・コンセント」と「リビングウィル」の概念について、歴史とその意義について学ぶ。生命倫理が生命尊厳の上にあるべきことの考察。
第3章 1	倫理と法の関係について、歴史的・社会的な考察。規範の性格が普遍性にあること、そして現代求められる規範とはなにかについて考えていく。人権一般の意義と「第三世代の人権」といわれるものについての理解を深める。
第3章 2	個人と社会という、人間存在の基本的なあり方からくる諸問題の考察。東西の人間観の性格を見ると、西洋には個性が、東洋には共同体性・社会性が強く反映されている。
第4章 1～2	「倫理」「ethics」の語源と意味を調べることで、「人間らしさ」を求めるのが倫理であることがわかる。そして吉田松陰の行った教育がどのようなものであったかを調べることによって、それが人間教育と呼ぶにふさわしいものであることを理解する。
第4章 3	はじめに儒教・儒学の歴史的な意義を見る。つぎに孔子の『論語』を中心として学んでいくことで、孔子の人道主義をたしかめる。そして井上靖の『孔子』をみることで、師弟の問題について考える。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第4章 4	西洋のヒューマニズムを「教育・教養」と「人道・博愛」の二つに分け、それぞれの起源について探究する。またこの二つが総合されることが本来のヒューマニズム（キケロのいうフマニタス）であることをみる。
第5章 1	第1章3でいわれた人間の「自己関係」について、ここでは自覚として考察する。代表的な「人間」の定義をみることで、動物との相違について考えるが、人間は自覚的存在であることに到達する。
第5章 2～3	自覚についてさらに検討する。人間の精神的活動との関係、ソクラテスの魂をめぐる教説、プラトンの洞窟の喩えを通して語られることがらを見る。そして、儒教や仏教など東洋思想にも注目する。
第6章 1～2	第6章は生命尊厳についての考察を内容とする。1では宮沢賢治の作品を通して非暴力が訴えられていること、2ではトルストイおよびガンジーの非暴力思想を考察する。
第6章 3～4	前回に続き生命尊厳思想の展開を見る。3ではシュヴァイツァーの「生への畏敬の倫理」について考察する。そして、4では東洋思想の中でもとりわけ仏教の生命尊厳思想の内容についてやや詳しく探究する。
第7章 1 (1) ～ (2)	倫理学の重要課題である「道徳と幸福の関係」について考察する。古代の幸福の考えについてみてから、近代の幸福論について、とくに功利主義の立場に焦点を当てて考察する。
第7章 1 (3)	前回を受けて、近代倫理学で最も重要なカントの考え方について学ぶ。カントは、基本的には道徳の立場に立っているといえるが、決して幸福を低めたり否定するのではなく、むしろ真の幸福確立への強い意図があるといえる。
第7章 2 (1) ～ (3)	つぎに悪についての思想をみていく。この回は、(1) ダンテの考えた悪の内容、(2) ユダヤ、キリスト教における悪の考え、(3) 近代における悪の考え方についてみる。
第7章 2 (4) ～3	悪について仏教は煩惱、無明として捉えた。そしてそれを思想的に把握したのが日蓮であった。次に、牧口常三郎の価値論についてみるが、牧口思想には自覚を中心とした体系があることが分かる。
第8章 1	第8章は宗教と倫理の関係の考察である。歴史的には古来の宗教間の争いが、西洋ではプロテスタントが発生してから宗教内の争いともなるが、17世紀から18世紀の寛容の問題として意識されることとなる。その寛容の旗手としてロックとヴォルテールについて。
第8章 2	倫理を基礎としたときに、宗教間の無駄な争いはなくなるとカントは見る。倫理・道徳を基礎とした宗教論を発表した。また、レッシングは宗教の目的が幸福の実現にあることを基礎に据えて、宗教間の争いをポジティブなものへと転換させようとした。
第9章 第1回ゼミ	第9章は5回のゼミからなっている。ここでは、倫理学史を中心に学習していく。第1回の今回は予備的・概括的に、(1) 倫理とは何か、(2) 規範と規範倫理学、(3) メタ倫理学について、学ぶ。
第9章 第2回ゼミ (1) ～ (2)	第2回ゼミは2回に分ける。今回は、まず〈よさ〉ということの意味について考察し、つぎに古代のプラトンに移り、善をどのように理解把握したかについて学んでいく。
第9章 第2回ゼミ (3) ～ (4)	アリストテレスの幸福論をニコマコス倫理学について学ぶ。「中庸」の概念は東洋にも通じるものである。つぎにキリスト教における善について学ぶ。ここでは、いくつかの基本的問題を考察する。
第9章 第3回ゼミ	近代における倫理学の展開をイギリス経験論と大陸合理論の流れに沿ってみる。前者ではベーコン、ホブズ、ロック、ベンサム（功利主義）、後者ではデカルト、スピノザ、ライプニッツについて。
第9章 第4回ゼミ	カント倫理学を詳しく学ぶ。カントの基本的な立場、道徳法則と定言命法、さらに人間関係をカントはどのようにとらえたか。近代思想が個人主義であることについて、カントはどのように個人主義の問題点を克服したのか。
第9章 第5回ゼミ (1) ～ (2)	19世紀から20世紀にいたる西洋の倫理学の展開を見る。19世紀ではマルクス、ニーチェそして新カント派。20世紀のメタ倫理学の新展開とその意義を考察する。
第9章 第5回ゼミ (3)	現代の課題と牧口価値論の意義を考察する。牧口価値論の優れた特色は、価値を関係論的にとらえた点だけでなく、生命の短縮と伸長、生活の利害を中心に価値を考察した点にあること。それはソクラテス以来の「善」の思想と結びついているのである。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	テキスト内容の学習の成果をみる。基本的な知識を50%、自分なりの思索と応用力を50%とする。
レポート	課題把握、教材理解、論理構成、読みやすい文字（文章）をそれぞれ等分に評価して、総合評価（ABCD、Dは再提出）とする。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：倫理学－価値創造の人間学－改訂版
著者名：石神豊
出版社名：創大通信教育部
出版年：平25.4
版：初版
刷：
ISBN：978-4-86302-062-7

■ 参考書

教科書（学習指導書）の各章に一覧として掲載。

■ 履修上のアドバイス

本科目の履修に当たって、テキスト学習が中心となります。そのさい、必ずテキスト内容を自分なりにノートにまとめること。また、関連した資料をなるべく集めるように努力してみてください。

まず学習指導書の「(1) はじめに」をよく読んでください。また、序論と第1章は全体理解の上でもしっかり学ぶことが必要です。

■ 自習時間

レポート1課題あたりの作成に20時間程度、科目試験のための学習時間として合計40時間程度。

■ 担当者のプロフィール

静岡県浜松市出身。名古屋大学、東北大学大学院にて哲学を学ぶ。西田幾多郎の研究にて博士号取得。専門は西田哲学、近代西洋哲学、人間学。現在、本学文学部教授